

# 進路だより

第1号



令和2年 4月 7日

青森県立八戸東高等学校 進路指導部

## 72回生 合格状況

令和元年度の国公立大学の全日程の合否結果が判明しました。日程ごとに見ると、AO・推薦31名、前期日程39名、中後期日程4名、合計74名でした。また、私立大学はのべ152名、短期大学のべ16名、専門学校はのべ47名、大学校1名、公務員のべ14名、就職3名が合格しています。



## 進路達成に向けて～先輩からのアドバイス～

3学期は臨時休校で長期間学校に来ることができず、健康面はもちろんのこと、学習面でも不安に思っている人は多いことと思います。臨時休校によって失った時間は取り戻すことはできず、大学入試共通テストの日程は決まっています。つまり、いかに効率よく学習や進路対策に取り組むかが進路達成のカギとなるのです。そこで、今号は進路を達成した先輩方の合格体験記を紹介します。先輩方の成功例はもちろん、失敗例からも学ぶことは多いはずで、是非参考にしてみてください。

### 長岡造形大学 造形学部 建築・環境デザイン学科 (推薦合格)

#### 「推薦・AOを受けるためにやってほしいこと」

私は、ボランティア活動や企業訪問、オープンキャンパスに積極的に参加することがとても大事だと受験を終えて強く感じました。私は、推薦での受験を決める前はほとんどそれらの活動に参加していなかったので、志望理由書を書くときや、面接練習のときにとっても苦労しました。試験の約1ヶ月前に、建築関係の企業に見学をさせてもらったり、建築士の方と話をする機会を作ったりしましたが、その時期は色々な書類を書かなければならなかったのととてもバタバタしてしまいました。推薦やAO入試を受けたいと考えている人は、自分の経験や、話のネタを増やすために色々な活動に参加してほしいです。また、論文ノートや新聞ノートを丁寧に取り組んでほしいと思います。これは、志望理由書や面接の内容の質を上げるためです。それらのノートを通して、自分がどんな事をして社会に貢献したいのかを具体的に考えることができます。実際に面接の質問の中で自分が論文ノートで詳しく調べたことについて聞かれたのでスムーズに回答することができました。加えて、論文ノートや新聞ノートでは、自分の意見を書くことになっていました。与えられた情報に対して自分の意見を持ち、それをわかりやすく表現する練習ができたので、小論文を書くときに役に立ちました。私は、「様々な活動に積極的に参加する」ということを1番に伝えたいです。活動を通して自分が本当に好きなことを見つけて、それを深く学ぶことができる大学を目指してほしいです。

## 新潟大学 法学部 法学科（推薦合格）

### 「真面目に取り組むという積み重ねを大切に」

私は高校一年生の冬にはある程度志望校を絞っており、二年生の夏にオープンキャンパスに行った際、第一志望にする大学を確定させました。早くから目標が定まっていたため、三年生になってからすぐに受験の準備を始められました。

新潟大の法学部は資格やボランティア活動などの実績をあまり重視していませんでしたが、その代わりに社会への興味・関心の高さに注目していました。そこで、私は毎日ニュースを見て、それについて自分なりに考察するように心がけました。特別ノートなどにまとめたりはしませんでした。家族や友人と意見交換をしてさらに自分の考えを深めたり、改めてまとめたりしました。自分の意見に満足せず、様々な人の意見を聞くことで、多角的に物事を見る力を養うことができたと思います。この力は、自己申告書を書く際にとっても役立ちました。

私は人前で話すことが苦手でしたが、面接はかなり好調でした。私は志望校が決まったときから推薦受験をしたいと考えていたため、演劇部や応援委員会などに所属し、ある程度人前で話すことに耐性をつけていたことが功を奏したのだと思います。部活動や委員会は実績となるだけでなく、自分の苦手を克服する良い機会でもあるため、是非今後の受験生は活用して欲しいです。

一、二年生の間は「まだ時間があるから巻き返しが効く」と言われることもありますが、実際そんなことはありません。失った時間の分を取り戻そうとするには相当な覚悟と努力が必要であり、誰にでもできることはありません。特に推薦は、一年生の頃から毎日の授業、提出物、考査に真面目に取り組むという積み重ねが大切です。学習量をいきなり増やすのではなく、普段の生活態度から改善していくことが推薦合格への道を切り開くものにつながると思います。

## 岩手大学 理工学部 システム創成工・電気電子通信コース（前期合格）

### 「教える側に回る」

私は、元々岩手大学を第一志望にしているわけではありませんでした。しかし、センター試験での点数の低さのために岩手大学にせざるを得ませんでした。点数の低かった一番の要因は英語でした。

私は英語がとても苦手でした。定期考査では赤点をとるほどでした。英語の学習は単語が第一でした。得点が高い長文は解けるように読む力を中心に高めるようにしていました。

一番効果がある学習法だと思ったものは自分が教える側に回ることです。苦手科目を教えることはできないので自分にとって良くも悪くもない科目か得意科目でないとうまくいきませんが友人に教えることでより深くそのものについて学習するようになります。また、言葉としてアウトプットするのであやふやで感覚的だったことが明確化され忘れにくくなります。

センター試験の後は学習する教科の数がぐっと減ります。志望する大学が課している試験の科目だけになるので何を学習すればよいかはわかりやすくなります。そのため、集中してその科目の学習ができたのですが、範囲が小さい分同じようなことをしている感覚で前に進んでいるのかわからなくなっていました。しかし、同じことをしているような感覚でもよいと思います。なぜなら学習したことが頭に入っているからです。そして2次試験でも同じようなことをしている感覚になればその問題は解けるということだからです。

また、私は前期で合格したので使うことはなかったのですが、面接や小論文といったものは多様な経験があればあるほど楽になるので色々と挑戦しておくといいです。私も、後期の面接の練習で部長やクラス委員長をしていたことで話す内容にあまり困りませんでした。そのため、どんなことでも挑戦して欲しいです。

## 岩手県立大学 総合政策学科（前期合格）

### 「楽しかった受験期間」

先に不合格体験から話したいと思います。私は11月に岩手大学の推薦入試を受け、不合格を経験しました。ほぼ毎日学校で遅くまで小論文と面接の練習を行っていた私には自信がありました。合格発表の日、岩手大学のホームページに私の番号はありませんでした。ショックで学習に対する意欲を失い、授業にも集中できない日が何日も続きました。気持ちの切り替えが遅かったこと、推薦入試対策に学習時間を取られたことにより、周りの友人と学力の差が開いていました。

どうにかしてセンター試験へのモチベーションを高めるために、まず科目ごとの目標点を定め、学習方法を考えました。特に私は200点満点の国語に力を入れました。国語は苦手教科で、模試では平均点以上をほとんどとったことはありません。岩手大学はセンター試験の得点率70%がボーダーで、私は140点を目標に学習しました。授業中の先生の発言を逐一メモし解くコツをつかみつつ、帰宅後は過去問を解いては復習することを繰り返して行きました。その結果、本番では国語は7割弱とることができました。しかし国語に時間を費やしてしまったことで、他教科の点数が下がり合計得点率70%というボーダーには全くとどきませんでした。岩手大学を諦め、岩手県立大学に出願することを決めましたが、そこもボーダーにはとどいていませんでした。岩手県立大学は総合問題という、いくつかの資料を読み取ったうえで、自分の意見を述べる250点満点の試験です。推薦入試のときに小論文を何度も書いてきた私にとって自分の意見を述べるのは得意分野でした。絶対に合格したいという気持ちで、一般入試までの残り一か月は、新聞を読んだり公民の資料集を見たりして資料読解の力を身につけました。そして、合格という結果をいただきました。

最後に私から伝えたいのは、2点です。①合格発表はとても楽しいです。あのドキドキは今でも覚えています。自分の番号が見つかるのと更に最高ではないでしょうか。合格した瞬間の自分を想像してみるのもいいと思います。②最後まで諦めず努力し続けてください。センター試験で失敗したときや一般入試の倍率が4.4倍と知ったとき、私はとても落ち込みましたが、必ず受かると信じて学習しつづけました。

自分がその大学に入りたいという強い意志が合格につながります。受験生の皆さんの健闘を祈っています！

## 宇都宮大学 国際学部 国際学科（推薦合格）

### 「新聞やニュースを見て意見を持つ」

私は宇都宮大学を受験するにあたって、1年生の時から英語検定に積極的に挑戦していました。結果として出願条件であった英語検定の級を、余裕を持って満たすことができ、早いうちから検定の取得をして良かったと思います。その他に私が取り組んだことは、ボランティア活動です。ボランティアは3年生になって初めて参加しましたが、もっと早くにやっておくべきだったと思いました。なぜなら、出願する際に提出する自己推薦書の作成には具体的な体験談が必要だったからです。幸い、私が宇都宮大学を志望しているのに最適なイベントのボランティアに参加することができ、そこで多くを学べました。国際分野に興味のある方には、『国際交流フェスタ』というイベントがおすすめです。

この他に私は集団面接に向けて担当の先生と練習をし、そこで使用した文章、ネットで得た話題をコピーしてノートに貼り、自分の意見を書くという、集団面接対策ノートを作っていました。その際、友人・両親にも意見をもらい、幅広い考え方をするように心がけました。また、推薦に向けて何をすれば良いのか分からないという方は、とりあえず新聞やニュースを見て意見を持つことから始めてみてください。意外と興味深いものです。

最後に、受験時のアドバイスをすると、これは推薦入試、一般入試のどちらにも言えることですが、遠方に受験しに行く際には、自分1人だけでなく親と一緒にいった方が良いと思います。自分1人だけだと、“入試の不安”と、“ちゃんと目的地にたどり着けるかなという不安”が二重になって自分にのしかかってきます。一方、親が隣にいてくれることによって安心感が生まれ、また入試の不安と一緒に背負ってくれます。加えて、この受験をしてみて私は面接時には、明るさ・笑顔・堂々とした態度がとても重要であると感じました。

## 秋田県立大学 建築環境システム学科（前期合格）

### 「自分に合った学習法を早く探す」

私が本格的に受験を意識し始めたのは3年生の夏休みで、限られた時間の中で何が出来るか考え、逆算して計画をしました。苦手な教科に多く時間を費やし、何月までにはここまで伸ばそうと目標を持って学習していました。しかし、点数はなかなか伸びませんでした。ここには、2つの理由があると私は考えます。1つ目は何をすれば良いのか分からなかったことです。とりあえずたくさんの人が持っている参考書を買って、何周か解いていました。自分が解ける問題も含めて何度も学習していたので効率が悪かったと反省しています。2つ目は分からない問題を先生に聞きに行かなかったことです。放課後に聞くことが出来たのですが、私は早く帰って学習した方が良いと思っていました。

センター試験が終わり目標とする点数に届かず、2次試験の講習では、分からない問題を先生に聞こうと思い何回も聞きに行きました。分かる問題がどんどん増えていき、2次試験は実力を発揮することが出来ました。

悩んだら先生に相談してみてください。センター試験が終わり、新しいテストを受ける生徒は特に不安だと思います。何をやれば良いのだろう、分からない問題がある、このような壁にぶつかった時先生は必ず助けてくれます。些細なことでも話してみてください。

そして、たくさんの学習方法を試してみてください。家で学習できない人は場所を変えてみたり、やる気がでない人は好きな音楽を聞いてから学習したりしてみてください。このように自分に合った学習法を探すのは早い方が絶対に良いです。これを読んでくださった人は今日から探してみてください。

これから受験する生徒が成功することを願っています。

## 航空自衛隊一般曹候補生

### 「隙間時間をうまく使う」

私が自衛官を目指したのは中学生の頃でした。ですが、公務員試験対策を始めたのは高校3年生の冬頃で、本格的に始めたのは高校3年生になってからでした。3年生になってからは公務員の講習に参加して、そこでもらったテキストを最大限に活用しました。国家公務員の試験と自衛隊の試験問題の出題形式が全く違うものだったので、それぞれのテキストを自分で買って、理解できるようになるまで何度も解きました。どの試験で何の教科を受験するのかを確認して、コツコツと対策していくことが大切だと思います。

朝は少し早く学校に行って適正試験の練習を繰り返しました。何度も解くことで慣れていくと思うので、点数を取れるように必死になって解くことがコツです。公務員試験には、特殊な問題が出題されるので、様々な問題に取り組んで、1問でも多く得点できるように努めました。考えてもわからない問題は友達に聞いたり、講習会に行った時に講師の方に教えて頂いたりして理解を深めました。分からない時は積極的に聞くことをお勧めします。2次面接対策は、過去に聞かれた質問がまとめられた資料をもらって自衛隊の方や先生と練習しました。練習の時から常に緊張感をもってやっていた甲斐もあって、当日は良い雰囲気の中で面接に臨めたと思っています。また、体力に自信がなくてもついていけるという話は聞いていましたが、不安だったので自分なりに筋トレやジムに行って体力づくりに励みました。

公務員試験は大学の試験よりも早く行われるので、隙間時間を上手く使って諦めずに最後まで頑張ってください。

